

# 昭和33年「数寄屋橋交差点辺り」



数寄屋橋は、慶長11年(1606)から江戸前島の背筋を掘削して、江戸城外堀を設けた時に架けられた。それから350年、自動車専用道路建設のため外堀が埋め立てられ、昭和3年に架けられた石の橋も壊された。写真の国電(現JR)ガード越しに見えるビルは、関東大震災後に建った電気会館。ガードの手前に、昭和37年、東海道新幹線が増設された。さらに手前の丸い建物が有名な日劇。昭和8年12月開場以来、全国の人々に愛されたが、昭和59年3月、改築のため取り壊された。戦争末期の風船爆弾製造工場転用、戦後の宝くじ抽選会など、さまざまなエピソードも生んだが…。

その右の、軍艦の艦橋を思わせるビルは、昭和2年に建てられた朝日新聞社。空の黒点は、新聞社の伝書鳩である。通信手段の少なかった昭和30年代では、鳩の帰巢本能を利用して、離島やへき地からの情報は、鳩の胸に結び付けられた筒に託した。(昭和33年6月14日撮影)



「朝日新聞東京本社」と「日劇」の建て替えを契機に、1987年「有楽町マリオン」が完成した。この「有楽町マリオン」は、阪急百貨店と西武百貨店、7つの映画館と1つのホールで構成された巨大な複合建築物である。「マリオン」とは、建築用語で「窓を仕切る飾り柱」を意味するが、ここでは窓を通して大量の生活情報を整えるという気持ちが入められているという。「有楽町マリオン」と同時期に、「日比谷シャンテ」が完成。さらに1997年には「東京国際フォーラム」ができ、ここ有楽町周辺は文化的な街として確立することになる。常に有楽町は成長している。

(平成12年4月21日撮影)